

令和元年度地震・津波防災訓練 (内閣府・北海道広尾町)

実施報告書 (概要版)

北海道広尾町について

広尾町は、北海道十勝管内の最南端に位置し、豊かな自然を生かした漁業を中心に農林漁業を基幹産業として発展してきました。また、首都圏と結ぶ海の最短距離に位置する重要港湾「十勝港」は、十勝の海上輸送の拠点港として今後の発展が期待されています。

広尾町では、地域防災計画において、町に多大な被害を及ぼすと考えられる地震として、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震を挙げており、平成15年9月の十勝沖地震、平成23年3月の東日本大震災など過去に甚大な津波被害が発生していることから、町内全戸への防災無線受信機配備や避難路、避難階段の設置などの防災対策事業を実施しているほか、毎年沿岸地域を対象とした地震・津波避難訓練を実施し、防災体制の強化と地域住民の防災意識高揚と知識の普及を図っています。



出典：国土地理院

訓練概要

- 訓練想定：「令和元年11月7日午前9時30分に、十勝沖を震源とするマグニチュード9.1の地震が発生し、広尾町では震度7を観測。町の沿岸部（十勝港）では36分後に約29.4m（最大津波高）の到達が予想される。」との想定で広尾町は直ちに沿岸部の住民に対し津波からの避難を呼びかけました。
- 実施日時：令和元年11月7日（木）09:30～13:00
- 主催：内閣府、北海道、広尾町
- 参加者数：約350名
- 参加機関：釧路地方气象台、釧路地方气象台帯広測候所、広尾警察署、広尾海上保安署、とがち広域消防局広尾消防署、広尾町消防団、広尾町赤十字奉仕団、町内自主防災会、芽室町、北海道立広尾高等学校、北海道コカ・コーラボトリング株式会社、株式会社彩生

訓練の評価

訓練実施間は、天候に恵まれ、地域住民、町内所在企業、保育園、関係機関等が、終始熱心かつ真剣な態度で訓練に取り組んだ。

訓練実施後の地域住民へのアンケート結果から

- 避難する際には、ヘルメットや防寒着の準備が必要だと感じた。
- 防災士の資格は取得したが、それ以来、防災の役に立てることをしていないので、定期的に訓練を出来たらいいと思った。
- 避難所開設訓練において、ダンボールベッドの組立（備蓄資材の取り扱い）などを实际的に体験でき良かった。

という評価の一方で、次のような意見も見られた。

- 港湾部からの丘へ上がる階段について、もっとゆるやかに改修出来れば避難し易い。
- 屋外の防災無線の音量が小さくほとんど聞き取れない。
- 避難場所までの避難経路に居住地より低い所がある。

広尾町職員の所見からは、

- 避難指示の発令から速やかに避難をする住民の方が大変多く、地域全体として、防災への関心とその取り組みに対する理解があると感じた。
- 今回、避難所運営訓練に参加し、開設にあたっての役割分担や指示系統の重要性及び必要物品について考えるよい機会となった。有事の際に活かしたいと思う。
- 避難場所では避難指示の無線がほとんど聞こえなかった。消防のサイレンが聞こえてきたのも無線放送終了から4～5分くらいしてからだった。など、住民の防災意識の高さを訓練の成果を評価する意見とともに、防災行政無線（放送設備）の不備に関する指摘など、今後の改善に資する意見も見られる有意義な訓練となった。

訓練内容

10月15日 14:00～16:00 訓練事前説明会及び防災講習会

自主防災組織のリーダーを対象に避難所開設・運営訓練の事前説明会及び地区防災計画、災害・避難カードの作成に関する防災講習会を実施し、自助・共助による避難行動等に関する意識を醸成した。

▼避難所訓練の事前説明



▼防災講習会



▼備蓄資材の取扱い実習



11月7日 09:30～10:00 シェイクアウト訓練及び津波避難訓練

広尾町全域を対象に各々の場所で一斉に安全確保を行うシェイクアウト訓練を実施した後、防災行政無線による津波避難の呼びかけに応じ、保育園児及び住民等は、緊急避難場所への避難を実施した。

▼シェイクアウト訓練（ひろお保育園）



▼旧広尾小学校への避難



▼緊急避難場所での安否確認



11月7日 10:30～12:10 防災講話及び避難所開設訓練、支援物資受入れ訓練

津波避難訓練終了後、青少年研修センターに訓練会場を移して、気象台による防災講話及び避難所開設訓練、支援物資の受入れ訓練を実施し、住民主体による避難所運営意識の高揚を図ることができた。

▼気象台による防災講話



▼地域住民主体による避難所の開設



▼支援物資の受け入れ



11月7日 12:10～13:00 訓練の講評及び炊き出しの試食

避難所開設訓練終了後、町長等による訓練の講評を行った。

早朝から実施していた広尾町赤十字奉仕団による炊き出し訓練により調理したシーフードカレーの試食を行い訓練を終了した。

▼町長の講評



▼内閣府担当の挨拶



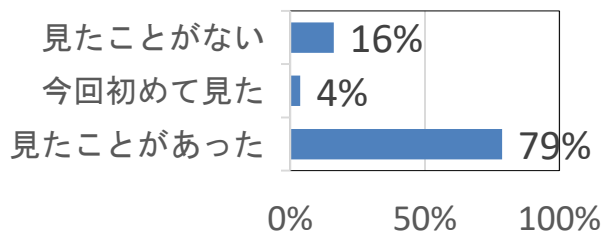
▼炊き出しの試食



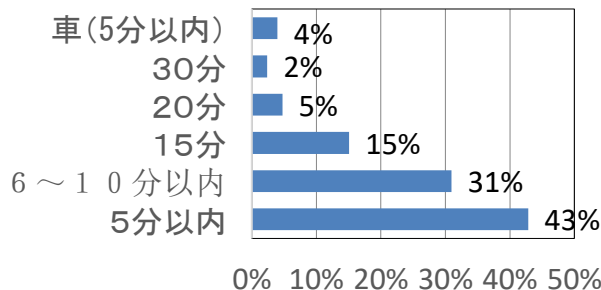
アンケート結果

住民の方々の防災意識や津波避難対策への取組み状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。（アンケート回収数：136枚）

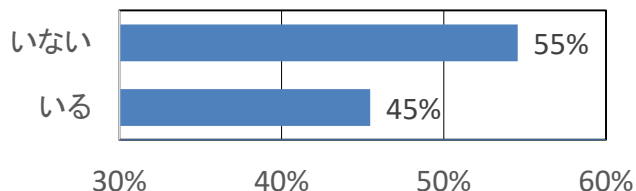
広尾町が作成したハザードマップを見ることがありますか。（回答数：134）



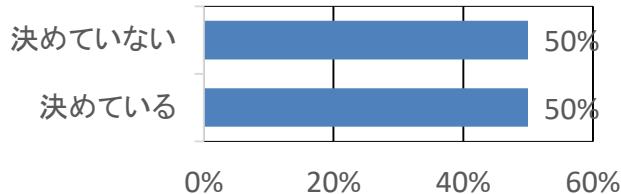
避難先には何分かかりましたか。（回答数：126）



あなたの周辺には、避難行動要支援者がいますか。（回答数：110）



災害時に一緒にいない家族との連絡手段を決めていますか。（回答数：116）



【自由意見】

（訓練全般に関する事項）

- ヘルメットの準備や防寒着の必要を感じたので準備しようと思った。参加したからこそ実感した。
- 参加人数が少ない。女性が少ない。
- 防災士の資格を取得したが、それ以来何も役に立つ事をしていないので、何か自分に出来る事があれば。

（津波避難訓練に関する意見）

- 高齢者をかかえた生活であるのでスローな避難がやむを得ない。アドバイスなどあれば歓迎ですし、もっと安心を感じられる訓練を期待する。
- 避難場所までの避難経路に居住地より低地の所がある。
- 港湾部からの丘へ上がる階段について、もっとゆるやかに改修出来れば避難しやすくなりうれしいです。

（防災行政無線に関する意見）

- 屋外の防災無線の音量が小さくほとんど聞き取れなかった。
- 港内の防災無線が小さく感じた。

（避難所訓練に関する事項）

- ダンボールベッド組立、リアルに体験できて良かったです。